

飯田市 座光寺

ざこうじばら

座光寺原遺跡発掘だより No.1

発掘調査がはじまりました

座光寺上郷道路建設に伴う、座光寺原遺跡の発掘調査を8月25日から行っています。

座光寺原遺跡は、昭和37年（1962）に災害復旧に伴い調査が行われています。この調査で出土した土器をもとに、「座光寺原式土器」という弥生時代後期前半に下伊那地方で使われた土器を代表する名称がつけられました。

ほうけいしゅうこうほ

方形周溝墓がみつかりました

これまでに、3基の方形周溝墓と土坑が数基見つかっています。周溝墓は重なってはいませんが、それぞれが近い位置に造られています。この一帯は、周溝墓が複数造られた墓域であることがわかりました。



2号周溝墓（破線部分）と3号周溝墓（中央）の検出状況

座光寺原の方形周溝墓

今回みつかった“方形周溝墓”は、溝を方形に掘って区画し、その内側に土を盛って墳丘を造ったものです。ほぼ全体を確認することができた1号周溝墓は、1辺の中央が切れた形をしています。

(図1)

大きさは1号周溝墓と2号周溝墓が8mほど、3号周溝墓は11.5mほどあります。周溝内の人骨が埋葬される主体部は、2号周溝墓は調査区の外に位置し、1・3号周溝墓は上面が削られている影響もあり、残っていない可能性が考えられます。今のところ、周溝墓に伴う土器などの遺物は出土していません。



1号周溝墓 調査風景

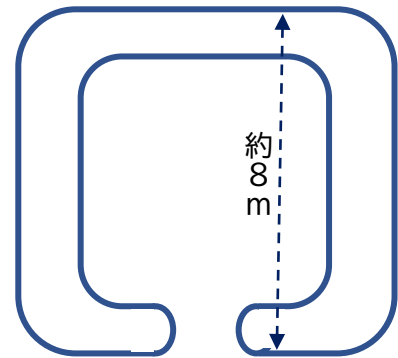


図1 1号周溝墓 模式図

飯田の周溝墓

飯田市内では、黒田垣外遺跡など多くの周溝墓が確認されています。

周溝墓は、弥生時代後期から古墳時代の前半にかけて造られたお墓です。形は方形のほかにも円形などがありますが、南信地方では、方形の周溝墓が主に造られています。

調査区の周りにある果樹園のりんごが収穫期を迎えています。
ここでも秋を感じます。🍎



新しく見つかった周溝墓群です。遺物などの発見もあるのか、楽しみです。

飯田市 座光寺原遺跡 発掘だより No.1

担当者：伊藤 愛 遠藤恵実子

長野県埋蔵文化財センター飯田支所

住所：飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

発行 令和4(2022)年10月12日

HP：<https://naganomaibun.or.jp/>